

第3章 計画の推進

1. 計画推進と進捗評価の考え方

(1) 計画推進の考え方

少子高齢化など、観光を取り巻く環境は著しく変化しています。個人のライフスタイルが多様化する中で、旅行スタイルは従来の「通過型・団体型」のものから、訪れる地域の自然や歴史・文化、伝統、食、生活などを地域の人々との交流を通じて体験する「滞在交流型・個人型」ものへと変化しています。

今後の観光振興においては、その土地ならではの自然や生活文化、そして人と交流することのできる観光に取り組む必要があります。

それは観光関係者をはじめとする地域の人々が、地域に愛着を持ち、観光客と交流することで、さらに地域に誇りを持っていくといった観光地域づくりの発想に立たなければなりません。

本市においては、小岱山や小代焼などの「山」の資源、荒尾梨や美しい里山などの「里」の資源、世界文化遺産となった万田坑等、宮崎兄弟の生家、グリーンランドや宿泊施設などの「街」の資源、ラムサール条約湿地に登録された荒尾干潟やマジックなどの「海」の資源など、さまざまな地域資源が豊富に揃っています。

これらの資源を最大限に活かし、もうひとつの資源である「人」が知恵を出し合い、磨き上げることで、資源の背景にある物語を知り、活かし、つなぎ、それらを強く発信し、人を集め、楽しみながら交流を深めていく観光地域づくりの推進が、今後の観光振興の方向性であると考えます。

そのためには、本計画の実行に関わる関係者が常に事業を進めるのは自分たちであるという思いを共有し、「無いもの・足りないもの」を重視するのではなく、「今あるもの」をどう活かしていくかを念頭において、全員が力を結集しなければならないと考えます。

(2) 進捗評価の考え方

計画を地に足をつけた実効性のあるものにしていくためには、取組の検証が重要であるため、関係者で部会を組織し、各部会で優先順位を決めて取り組んでいく必要があります。

また一方で、マーケットのニーズが日々変化していくため、専門家によるアドバイスを活用しながら、施策内容がマーケットのニーズにかなっているのかなどについても、点検し変更するといった柔軟な取組が求められます。

施策の実践者自らが、Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（見直し）サイクルを認識しつつ常に自己チェックを行いながら推進していくことが必要です。

2. それぞれの役割

観光振興においては、行政や観光関係者のみならず、その他の産業関係者や地域の人々が深く関わり、これらが一体となって取り組むことが重要です。関係者それぞれができることを考え、本市の魅力づくりのため歩調を合わせて共に歩むことが必要です。

地域の人々の役割

地域に愛着を持ち、その魅力を発信する、また、観光客への積極的なおもてなしなど、観光地域づくりにおける主体的な役割を担います。

商工会議所の役割

既存製品の磨き上げや地域資源を活かした新しい地域製品の開発、飲食店の活性化など、関係団体などと積極的に連携することで、それぞれが持つノウハウを活かした観光地域づくりの推進の一翼を担います。

観光協会の役割

各施策を包括的にまとめ、本市の観光のコーディネーター役を担います。関係者（地域の人々・関係団体・商工会議所・行政）をつなげ、戦略的な観光振興の推進を図ります。また、本市の観光におけるスポークスマンとして情報の受発信を積極的に行う役割も担います。

行政の役割

事業推進の牽引役として、人的・財政的な面をサポートします。民間にできることは任せ、初動時の事業を円滑に進める先導的な役割を担い関係者を常に支えることが期待されます。